

「少しでも平和」

八重瀬町立東風平小学校六年 川端 美結

わたしは、六月二十三日いいの日に平和祈念公園に行った。そこには、戦争で命を落とした人たちの名前が数えきれないほど書いてあり、私は戦争がもっと怖く、おそろしくなった。

わたしのおじいちゃんの家には、家族の写真がたくさんかざられてある。その中に一人若い青年の写真があった。お父さんが教えてくれた。「この青年は戦争で命を落とした人だよ。」お父さんがそう言うと、私は、八十年の月日が昨日のように感じられた。

しばらくして、私は平和祈念資料館に行った。外は晴れて青かったのに、資料館に入ったとたん真つくらになった。資料館には、たくさんの遺品があった。

少し歩くと、戦争を体験した人が、戦争について語っている音声の部屋があった。そこには、たくさんの人たちが語っていて、戦争がどれだけ多くの人たちの自由をうばい、どれほど多くの人たちの心に傷を付けたのかあらためて感じた。

人それぞれ語っていることはちがったけど、「もう二度とやってはいけない」と深く心に刻んだ。

資料館の中には、戦争の映像が流れているところがあった。わたしは、なぜかじつと見ていた。戦争に対して、こわい、おそろしいと思って今まであまりふれてこなかったけど、この時にはもう、戦争についてもっと知りたいと考えるようになっていた。

戦争中は、毎日のように誰かが命を落とす。食べる物もなく、自由な生活なんてできない。でも、今のわたしたちはどうだろう。毎日食べ物が食べれて、家族や友達と毎日のように話せて、助け合える。わたしは戦争についてふかく考えてみて、食べる物があって、家族や友達と毎日のように話せる。そんな少しの事でも、平和だと感じるようになった。

これは、いつ元にもどるのかは分からない。

でも、「少しでも平和」が続けば「大きな平和」になり、みんなが安心して過ごせるような日がいつか来ると思う。だからこそ、戦争があったこと、たくさんの人たちの命がうばわれたこと、たくさんの人たちの心に傷を付けたことを伝えていくことが大切だと思う。

「少しでも平和」